

第4学年 国語科学習指導案

児童 4年1組 男子16人 女子17人 計33人

指導者 宮田 真由美 千葉まゆみ 1

単元名 わたしたちの体について調べよう 10月下旬 14時間(読む5 書く9)
(教材名 体を守る仕組み・これが「わたし」です)

2 単元について

(1) 教材について

第3学年及び第4学年の「書くこと」における目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。

本教材は、教材文「体を守る仕組み」で段落相互の関係を考えながら内容を読み取った後、他の仕組みについても図書資料などで調べるとともに、必要な情報を収集し・選択・整理し、それらを分かりやすく文章に書いていく教材である。

(2) 児童の実態

児童はこれまで、3年生の「ありの行列」で段落について知り、4年生の「ツバメがすむ町」において段落と段落のつながりについて学んできている。また、「新聞記者になろう」や「グラフをもとに」では、相手意識を持って伝えたいことをはっきりさせて書くことを学習してきている。これらの学習を通して、分かったことや調べたことを整理してまとめようとする意識も芽生えてきている。

1学期に行った作文の意識調査によると、学級の児童のほとんどが文を書くのが好きと答えている。しかしながら、中心となることを簡潔にかくことや、相手意識を持って調べたことを分かりやすく書くことはまだ不十分である。書くことに苦手意識を持ち、何を書いてよいか悩みやすい児童もいる。

(3) 指導に当たって

本単元では参考例を提示しながら分かりやすい文章はどう書くかを覚えさせたい。そして百科事典から必要なことを見つける手順や、分からない語句を辞書で調べる手順を確認し、読む人に分かりやすい文章を書かせたい。

(4) 研究仮説との関わり

ア 教材の工夫(視点・1)

ワークシートを工夫し、自分の調べたいことを容易にメモしたり、構成したりできるように必要な項目や注意点を取り入れたシートで学習活動を進める。

イ グループ学習やTT指導(視点・2)

グループ学習やTT指導を取り入れ、つまずきの見られる児童の支援に当たるとともに、他の児童一人一人の書く力をより高める指導を工夫していく。

ウ 座席表・振り返りカードの活用(視点・3)

児童一人ひとりの調べたいことを確認し、児童の活動状況や、つまずきの有無を座席表に記入することにより、個々の児童について具体的指導の手助けとする。また、自分の学習状況を振り返ることにより、自分のつまずきや成果を確認し、それを手がかりとして支援を行い、次の学習活動への意欲付けを図る。

3 単元の目標

自分たちの体について興味を持ち、段落相互の関係を考えながら文章を正しく読むことができる。

体について疑問に思うことを本を読んで調べることができる。

調べたり考えたりしたことをまとめて、今の自分を記録することができる。

[国語への関心・意欲・態度] 体を守る仕組みに関心を持ち、自分の体と結びつけながら、知りたいことを調べて文章や図にまとめようとしている。

[書 く こ と] 調べたり考えたりしたことをまとめて、今の自分を記録することができる。

[読 む こ と] 体について調べ、段落と段落の関係に気をつけて考えながら読む力を身につけることができる。

[言 語 事 項] 段落相互の関係を示す接続語について理解し、使うことができる。 4

単元の評価規準

	概ね満足
関心・意欲・態度	体を守る仕組みに関心を持ち、自分の体と結びつけて知りたいことを調べて文章や図にまとめようとしている。
書くこと	体を守る仕組みについて、事典などで調べて材料を集め、選択している。 書こうとすることについて、引用部分をはっきりさせて書いている。
読むこと	書かれている内容を正確に読み取るために、各段落の要点や段落相互の関係をつかもうとしている。 筆者の思いに自分の体験を重ね合わせて読み、一人一人の感じ方の違いを知ろうとしている。
言語についての知識・理解	段落相互の関係を示す接続語について理解し、使っている。

5 指導計画（13時間）

次時	目 標	評価規準	単元の評価規準との関連	指導体制
		概ね満足		
1	全文を読んで内容のあらましと書き方の特徴をとらえることができる。	体を守る仕組みについて興味を持ち、調べてみたいことを中心に学習の計画を立てている。	関読	一斉
2	全文を大きく3つのまとまりに分けることができる。	接続語の働きに気をつけて、文章を3つのまとまりに分けている。	関読	一斉
2	3 説明1の内容を詳しく読み取ることができる。	微生物を体に入り込ませない仕組みについて正確に読み取っている。	読言	一斉
	4 説明2の内容を詳しく読み取ることができる。	微生物が体に入ったときの仕組みについて正確に読み取っている。	読言	一斉
	5 筆者の願いを読み取り、自分の考えを持つことができる。	筆者の思いに対して、自分の考えを持っている。	関読	一斉
3	6 発表する相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えることができる。	相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えている。	関	一斉
3	7 図書資料を探し、必要な部分をメモすることができる。	・調べたいことに対して意欲を持って追求している。 ・必要とする資料を集めている。 ・集めた資料の中から自分の必要なことをメモしている。	関書	一斉
	8 9 語句の意味を辞書で調べるなどして、自分が調べたことを分かりやすく書き直すことができる。	引用文を辞書で調べ、分かりやすい文に書き直している。	書言	TT指導
	10 調べた資料をもとにして体を守る仕組みを相手に分かりやすく伝えるよう文を見直し、図などを使ってまとめることができる。	調べたものから必要な資料を選び出し相手に分かりやすく伝えるようにカードにまとめようとしている。	書言	TT指導
4	11 招待者を招いて、作品発表会をすることができる。	招待者に自分の作品を説明している。	関	一斉
	12 14 友達の作品を見て、感想を話し合うことができる。	感想交流することで、自分の考えを深めている。	関	一斉

6 本時の指導 (9/14時間 TT指導)

(1) 目標

引用文の中で難しい語句の意味を辞書で調べるなどして、2年生にも分かりやすい文になるように書き直すことができる。

(2) 具体の評価規準

	十分満足	概ね満足	努力を要する児童への支援	評価方法
書	引用文の中で難しい語句の意味を辞書で調べ、適切な言葉を選んで分かりやすい文に書き直している。	引用文の中で難しい語句の意味を辞書を調べ、分かりやすい文に書き直している。	辞書の引き方や、文の直し方を指導する。	ワークシート
	段落相互の関係を示す接続語について理解するとともに、適切に使っている。	段落相互の関係を示す接続語について理解するとともに、使っている。	接続語の意味や使い方方を指導する。	ワークシート

(3) 授業研究の視点

視点・2 辞書を使っての語句の意味調べや文の書き直しは、個人差がみられる学習活動である。そこで、TTで指導に当たったり、グループで相談し合ったりしながら書き直しの作業を行わせ、自分が納得した文を書くようにさせたい。

視点・3 前時の調べ学習の様子をもとに児童の状況を把握し、個々に応じた指導の手立てを座席表に記入し、それを生かしてきめ細やかな指導を行っていく。

(4) 展開

段階	学習活動	支援・留意点()と評価() 個...個に応じた指導	
		T 1	T 2
つかむ5分	1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">2年生にも分かるような文に書き直そう。</div>	前時の学習を振り返り、本時は、2年生にも分かる文に直すことを確認する。	つまずきの予想される児童の様子を観察しながら、必要に応じて声がけをする。

深 め る	2 文の書き直し方を確認する。 ・難しい言葉は辞書で調べる。 ・2年生にも分かるような言葉を選ぶ。 ・接続語を使って文をつなく。	いくつか例を示しながら、どのように直していくか確認し、記述への見通しを持たせる。	直し方を十分に理解していない児童を把握し、声がけをしていく。
	3 辞書を使って、難しい言葉を調べる。	調べたメモの中で、自分が分からない言葉を確認し、辞書を引いて調べさせるようにする。 辞書だけでは分かりにくいことも考えられるので、難しいと思われるものについてはヒントカードを参考にさせる	机間指導 個...辞書の使い方の苦手な児童に引き方を指導したり、支援したりする。
35 分	4 調べた文に合う意味を選び、分かりやすく書き直す。	言葉の前後の文に気をつけ意味の合う文章になるように書き直させる。その際、接続語が必要かどうか考えさせながら書かせていく。 机間指導 個...調べた中から適した意味を選択できなかつたり、上手く直せなかつたりしている児童を支援していく。 また、作業を終えた児童には、グループ内の友達の作業を手伝ったり、グループ内で読み合ったりするよう次の指示を与えていく。 自分が調べたことを分かりやすく書き直すことができたか。(書 ワークシート) 接続語を使っているか。(言 ワークシート)	机間指導 個...調べた中から適した意味を選択できなかつたり、上手く直せなかつたりしている児童には、対話をしながら支援していく。 また、接続語を十分理解できていない児童には、その働きについて再度指導しながら支援していく。
	5 できた児童の作品を紹介する。	友達の文章のいいところについて意見交流をさせる。	
ま と め る 5 分	6 本時の学習を振り返る	振り返りカードに記入させ本時の学習を振り返らせる。	授業でのがんばりや伸びが見られた児童についてメモし、次時の指導に役立てる。
	7 次時の学習内容を知る	次時は本時でできなかった直しの続きを行うことを告げる。	